

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ③⑨

橘町HP <https://tachibana-net.jp>

歴史・史跡をクリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和7年10月1日
責任者：吉野 勝美
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

納手くちょう区長 みやした宮下 まさひろ正博さん

きんなり かまくら
公業さん鎌倉での話ばっかいで、
ま〜だ、橘きに来んしゃれん
のう。



おまけに、2ヶ月も、水わたいの話題わすやった
けん、もう、前回分わすバ忘れようバイ

今月号はきんなり
橘公業さんが、女をめぐっ
て争はげう場面ばめんらしかバイ！！
タッパ君とミサエちゃん、よろしく。

忘れたろうケン、あらすじネ



今から800年前（鎌倉時代）のこと
橘町の主人公、公業が鎌倉で活躍！！

注）公業推定年齢は参戦時を元服年齢として
計算しています

- 1180年8月 頼朝挙兵 ……30号
- 同年12月 ……32号
- 橘公長親子が頼朝軍に参戦 15歳
- 1184年 19歳
- 屋島合戦で公業が讃岐の武士団を率いる
- 1185年 20歳
- 平家滅亡後、父の公長が敵大将の処刑を命
じられる ……以上33号
- 1189年 24歳
- 奥州合戦へ出陣
- 1190年 25歳
- その後、兼任の乱で戦う ……以上34号
- 1193年 28歳
- 曾我兄弟の仇討ち後、頼朝に弟範頼が疑わ
れて、公業の兄が討たれる ……36号
- 1195年 30歳
- 瀬田の唐橋で男を上げる ……37号
- 1199年 頼朝死去（3年分吾妻鑑欠落）
- 1203年 頼家出家、実朝が継ぐ
- 1209年 44歳
- 隣家、美作と騒動 ……今月号

●登場する人



主人公・公業さん



みまさかともちか

瀬戸康史
さんが演
じた人



わだよしもり

ほしじょうときふさ 北条時房

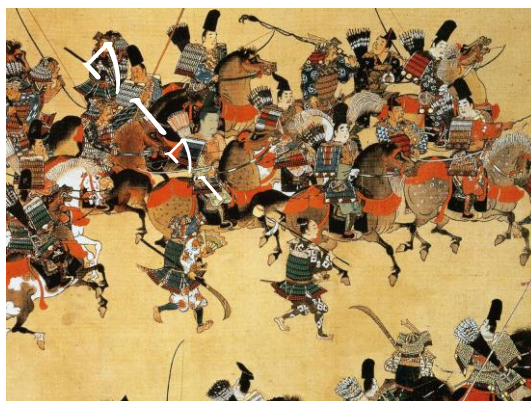
●今回からきんなり
公業さんが少し年をとりました

★ エピソード その⑦ 美作朝親と争う

今回は、ちょっとつやっぱい話ダヨ

① 公業と美作朝親が、とつぜん争いを始める

2人の家は、通りを挟はさんで向かい合わせ。ある
日、それぞれの縁者えんじゃが集まって、今にも戦たたかい
が始まろうとしているところ。



だれが
集まっ
たの？

ぐんじたんとう わだよしもり なかま
軍事担当の和田義盛は、仲間だからと
すでに公業方に。美作方みまさかかたには、武田や
おがさわら
小笠原がついていたんだよ。

② 将軍実朝は驚いて北条時房を送り込む

で、どうなったの？

ときふさ
時房が調べた結果、一度はおさまった
んだけど……。裏へつづく

でもさ、何で争いになったの？



③こんなきっかけがあって・・・

奥さんは日頃から
公業と浮気してい
たとバイ。知らんと
はあんただけタイ

見てお
れ！恋の
かたき せいばい
仇、成敗
してやる
ッ!!



④じつは、美作の妾女が、夜になって向かいの公業の門に消えていった・・・



いっちゃん、あん人の
顔ばみとうなか!!

それをみて、たちの悪い男が
おもしろはんぶん、告げ口をしたの
だった

⑤源実朝が北条時房に命じて
調べたところ（注）時房は義時の弟



彼女は美作の女に
まちが
間違いなし。
チャンと美作のも
とに帰しなさい

⑥公業は



私にも言いたい
ことはあるが、
しょうべんさま
將軍様が帰せと
おっしゃるなら..
帰しましょう

⑦それで、女はまたも
ゆくえ
行方知れずに



やっぱ
り、この
人とはい
やだ7!!

⑧美作は「おのれ！」

公業め
ッ!
こんど
こそ許
さん!!



表の騒動は、こうし
て始まったのです。
みなもとのさねともしょうぐん
源実朝將軍は、
たいへんしんぱい
大変心配して、騒動の
現場に時房をやって、
騒動をおさめさせました



⑨両者は仲直り



今は、もう文句は
ありません



私も依存ご
ざらぬ

⑩吾妻鑑にはここまで
が書かれています。と
ころが話には続きがあ
りそうで・・・
武雄市歴研究会会報誌
「湯かり」第77号
に、花田晴年さんが書
かれていますので、
簡単に紹介します

⑪北条義時は・・・
「この度の騒動の
非は、公業にあり、しかも再び
奥方が逃げたの
は、示し合わせた
に違いない。
公業を罰すべき」
と將軍に告げた。

⑫和田義盛が將軍に言う

私にお任せあれ。
公平に仲裁して見
せましょう



⑬和田義盛が美作
に向かって
「鎌倉中を巻き込んで騒動を起こしたのは、お前の妾女のせいだ。それ故責任はお前にある。公業の所にいたと言うが、奥方ではない。しかも他人の噂になっているなら、おんびん
穩便に済ませるべき。なのに、その女に恋狂い、奥方を離縁しようとさえした」云々

⑭解説

美作に向かって和田義盛が述べる言葉は痛快に続きますが、詳しくは77号を読んでください。この記事は、『大江伝記・鎌倉和田軍記』という鎌倉の五劫寺に残っていた古文書を翻刻したものだそうです。公業と朝親の騒動から始まり、和田義盛が北条義時の策謀にかかって滅ぼされるまでの記録です。北条氏の支配が強まる中、頼朝に近い古参が粛清されていき、和田氏も暴発するのですが、義盛とも近かった公業がそのきっかけとして描かれています。

